

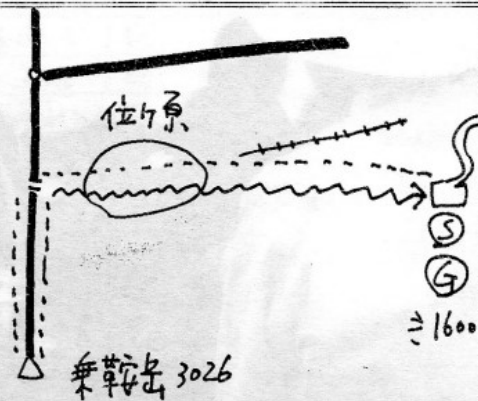
通算山行NO	NO・173S	報告者	加藤秀子
年月日	'00年 3月10日(金曜日)～	年 3月11日(土曜日)	
山行名	登山と山スキー	天候	曇り
山名	乗鞍岳		
この山のセールスポイント	富士山頂で味わった以上の烈風に 渾身こめてぶつかっていった冬山		
コース 及び タイム	/10 裾野16:00 ⇨富士IC17:20 ⇨乗鞍国民休暇村21:00(車中泊) /11 起床 3:30/5:21～ 777終点6:20～肩ノ小屋9:45～乗鞍頂上11:00～肩ノ小屋11:40～休暇村14:00 ⇨(風呂入浴) ⇨甲府会員と交流会⇨帰着⇨24:00		
標高差	△S 1600 ~ T 3026 ÷ 1426 m	体力度	1・2・3・4・5・⑥
	▽T ~ G = m	技術度	1・2・3・4・5・⑥
走行距離	~ = km	展望度	1・2・3・4・⑤・6
参加者	CL 後藤隆徳 52	もう乗鞍はこれで良し。	
	小田肉典 51	途中眠くリタイヤ。後で思うに残念。	
	加藤秀子 51	4年越しの登頂に、走馬灯のようにいろんな思いがめぐる。	

21:00 ホテルの風呂はまだ明るい。「勝手知ったる無料の温泉」で一風呂あびさせていただいた。広い湯船を独り占めしながら、ホカホカと身体が温まった所で、小田の妙チャンから会長に誕生日祝いの赤ワインのご相伴に与かる。外は冷え込み月明かり。『あ～した天気にな～れ』

今日は、妙高に山スキー登山の予定であったが、天気予報ではあまり芳しくないでCLが懸念し、芦安の清水に、19:00のNHKテレビの天気予報を見てほしい旨を依頼する。その結果、やっぱり悪く皆と相談の上で山域を乗鞍岳に変更となった。ゲレンデ隊の大石、石川恵は民宿の予約をしてあるからと諏訪SAから別れて予定通りそのまま妙高へ。

乗鞍岳頂上は私にとって4年目。近場で気軽に行ける距離という事で、通う事20回に手が届く。しかし、乗鞍岳の壁は厚く、いまだに登頂できぬままである。でも今度は絶対・・・と言うと『甘くないぞッ』とCL。そう。風に弱く上に、今の私は1月に左足首を骨折し、ギブスがとれて未だ1ヶ月。リハビリに専念し、やっとこの山行に辿り着くまでになったが、烈風吹き荒れる乗鞍岳に何処まで耐えられるのだろうか。疑問である。

起床と同時に食事の支度。アルファ米にレトルトの中華丼をかけ腹にかっ込み身支度を整える。乗鞍休暇村の駐車場からシール登行を開始。慣れたゲレンデを黙々と歩き、ゲレンデの最終地点で1時間弱。風邪で体調が悪い小田が遅れ気味だ。汗を吹き出し到着した小田に、後からゆっくり来るように言い残し先に行く事にする。此処から先は圧雪してないフカフカの雪でシール登行でも結構埋まる。今年は雪が多く、スキーヤーにとっては嬉しい限り。長く楽しめそうだ。5番札所でビーコンの取り扱いを教えてもらい、お互いに『埋まったら頼む』とスイッチオン。



最後の壁は10mの間隔を開け、雪崩に気をつけながら慎重にジグザグ登行。登り切ると位ヶ原だ。途端にモーレツな烈風にやっぱり・・・と落胆しかけたが正面には乗鞍の頂上がいっぴきと見える。『今日は行ける』とCLは休む間なく進む。位ヶ原の雪面は、オーロラのヒダの様なうねり模様の雪紋でビッシリ覆い尽くされ(シュカブラ)歩きづらい。固い雪面は段差を踏み外すと足に響き、これが肩ノ小屋まで延々と続くには閉口した。

やっと肩ノ小屋着。ガスがかからないうちにと早々に仕度をし朝日岳にとりつく。アイゼンに締めつけられたスキー靴は足首が曲がらず、ロボコップそのもの歩き。少し痛み始めた足にはきつく、雪混じりの岩稜帯、鋭い傾斜のトラバースと、続く緊張でつい遅れ気味だ。蚕玉岳(ばまけ)と剣ヶ峰のコルは、下から吹き上げてくるモーレツな風に、腰を低く屈め押されながらも無事通過。剣ヶ峰までは夏道から少しそれて、剥き出しの岩に掴まりながらやっと足を前に運ぶ。夏なら僅か5分も掛からない道なのに今日は遙彼方に感じられた。

一步。まだだ。あと一步。足が疼く。思うように歩けず悔しくて涙が滲む。『あと少しだ!』CLの声に、熱いものがジワッーと込み上げてくる。が、頂上に立った瞬間、其が一度に吹き出した。何と言ひ表してよいのか、こういう感激は初めてだった。堪えても堪えても涙が止まらず、鼻水はツララと化し泣き笑い。頂上は嘘のように風がなく穏やかで、360°の展望は素晴らしい。昨年登った御岳山、穂高連峰と名だたる峰々がつつらと居並ぶ。

思えば昨年の3月6日。やはり激しい風が吹き荒れるなかをやっとの事で肩ノ小屋に辿り着いた。そして朝日岳に登り始めたがモーレツな風に遮られ私だけ登頂を断念し、会長と堀合を肩ノ小屋で待っていた苦い経験がある。その前はシールが板に付かなくて諦め、その前は位ヶ原の猛吹雪で断念・・・と過去、何回断腸の思いで諦めただろうか。必ず登ってやると心に決めてから既に4年の歳月が流れた。頂きがあれば、やはり極めてみたい。それが今日やっと叶ったのである。本当にやっとな・・・。

長居は無用と直ぐに下山。剣ヶ峰と蚕玉岳のコルは風の通り道だ。行きは良かったが下りは真向からの向かい風。風圧で動けずにいる私に、『何グズグズしている。死にたいのか!』CLのモーレツな激が飛ぶ。頭を亀の子のように首に引っ込め、雪面スレスレに這いつくばっても足を前に出せない。頭上で風の咆哮が凄まじい。風に飛ばされれば即落下の馬の瀬で、尚も動けずにいる私を待ち切れず、『死ぬぞ!ずんずん来い』とシュリングでグイッと手前に引っ張ってくれ、やっと風の強い領域を突破できた。風と雪の格闘に此れが冬山かと感無量に浸る

肩ノ小屋からは板を滑降用にセット。例の「シュカブラ」に苦心惨憺しながらも位ヶ原を滑り、一番上の深雪に歓喜する。が足は段々と痛み始めて左足に重心がかけられず。直ぐ転倒。その度に足が痛む。度々待つCLに申し訳なく、先に行って欲しい旨を伝え、ゆっくり「つば足」で下る事にした。だが、なにせ深い雪。今度は左足を引き抜く度に足がズキンと痛む。歩けない自分に無性に腹がたち『もうどうにでもなれ』と、雪の上で空を仰ぐ事しばし。

板をズリッズリ引きずってゲレンデの最上部に着き、駐車場までやっと滑り辿り着いた時は嬉しくて本当に『ヤッターッ』って感じ。先に着いたCLがラーメンを拵えてくれ、小田が板とストックの雪を払いケースにしまってくれる。嬉しくて心の中で『ナマステ』と頭を下げる。帰りは温泉入浴後、甲府に立ち寄り甲府会員3人と交流を暖めて意気揚々と帰宅した。

く滑っていくCL。後から同じようにきれいな・・・といく筈だったがドデン、ズデンと深雪に四苦八苦。膝までの雪は重く、板が思うように動かない。少しでも前屈みになろうものなら板が雪にはまって、これまた抜くのに一苦労。そんな訳ですっかりCLに置いて行かれた。

しかし、ゲレンデに突入した途端、自分でも驚く程右に左にスムーズにターンができる。雪面はアイスバーン混じりのボコボコで、板が流れて滑りずらいが「滑べれる」という事は何と素晴らしい事か。雨のようにバサバサ降る雪にも負けず、「滑べれる」事を十二分に満喫し、再度の蓮華温泉ツアーに期待をかける事にした。

降り止まない吹雪にゲレンデを後にする。白馬の「十郎の湯」に立ち寄り、そこで天気予報の確認。昨年と今年に続く御岳山ならまず五分五分で行けるかも・・・と一風呂浴びて御岳山へ出発。



里は春、山は
大雪でした

上. 衆鞍山頂
小屋. 感涙.



中. 山頂からの滑
降. マチゲスナル
は誰?



下. 樹林帯の
深雪をくぐる.

